

ニチジョウサハンジ9
日常のあれこれを徒然なるままに

OTZ

今日のおすすめ

四月二日
創刊！

エッセイ

..... 定価（本体0円＋税）

目次

順番／タイトル

- 1 目次
- 2 まえがき
- 3 心をきれいにする
- 4 水は自ら低いところへと流れていく
- 5 忙しいという字
- 6 幸せになりたい？
- 7 望む人生を築き上げていくためには？
- 8 夢
- 9 限界
- 10 人は、一人では弱い生き物。
- 11 わかってくれない人はいない
- 12 創造すること、道を切り開くこと。
- 13 応援と信頼
- 14 人間を商品価値で判断する愚考
- 15 感謝の心
- 16 欲望という化け物
- 17 世の中の物差しはご都合主義
- 18 家庭
- 19 思うがままにできないこと
- 20 人生を味わいつつ生きる
- 21 間違いを犯した時
- 22 人生からの収穫
- 23 泳ぎがうまかろうがまずかろうが・・・
- 24 不確実な未来
- 25 法然上人の箴言
- 26 企業の理想
- 27 史上最強の人生戦略マニュアル
- 28 できる人
- 29 人をやる気にさせるには？
- 30 目の前の幸せ
- 31 最も力を発揮時・・・
- 32 仕事
- 33 遊び上手
- 34 見返りを期待しない

- 35 本当の幸せと「感動」
- 36 根源的な考え方
- 37 忍耐力を養うための試練
- 38 無気力の原因
- 39 プロ
- 40 仕事の仕方
- 41 花
- 42 世界に変化を求めるなら・・・
- 43 幸福感
- 44 自分の弱さを知る
- 45 人間力
- 46 質問
- 47 ビジネス書の使い方
- 48 自分自身をある程度客観的に見ることができる人
- 49 人間の時間は有限
- 50 コンコルドの誤謬もしくはサンクコストの過大視
- 51 アンカリング効果
- 52 比べるのなら、「昨日の自分」。
- 53 人は孤独の中で成長するもの
- 54 疑うことなく信じれば・・・
- 55 深い喜び、深い幸せ。
- 56 勉強よりも・・・
- 57 経験とは？
- 58 最高の近道
- 59 保証
- 60 力耕せば、吾れを欺かず。
- 61 平凡
- 62 汗
- 63 歴史
- 64 見返り
- 65 不快
- 66 真の幸せ
- 67 便り
- 68 一切の不幸せ
- 69 真の自由
- 70 親切で優しくあれ
- 71 特別

- 72 ほめる
- 73 心の糧
- 74 エリート
- 75 喜びを得るには？
- 76 どんな言葉も選択できるけど・・・
- 77 自分の器
- 78 一度に一つのことだけ
- 79 知識の聖堂の扉
- 80 環境
- 81 自分と同等のものを引き寄せる
- 82 人生に明確な目的のない人
- 83 真の自制心
- 84 一点に集中するノウハウ
- 85 思想的貴族
- 86 品がない行為？
- 87 アイデアや工夫
- 88 「今日」
- 89 弱い人間の本音
- 90 仕事の能率
- 91 運を味方に付ける一つの要素
- 92 内と外
- 93 男女比
- 94 人はその人の過去の全部である
- 95 情緒の中心
- 96 情緒の濁り
- 97 時間とは？
- 98 情と愛
- 99 人として一番大切なこと
- 100 善行
- 101 心の眼
- 102 自分というもの
- 103 知性は理性
- 104 教育について大切なこと
- 105 教育
- 106 人の心
- 107 恋愛の大義名分
- 108 自分を変えるための一番の方法

- 109 唯一の本当の間違いは？
- 110 本当の幸せを犠牲にしない
- 111 その場の感情や衝動に動かされない
- 112 混乱している根本的な理由
- 113 孤独
- 114 どのようにして人とつながろうとするか？
- 115 人に認められることを目指すということは？
- 116 比較の世界
- 117 人間の行動の動機
- 118 怒りの背後には？
- 119 怖れに支配されないこと
- 120 子どもの自尊心
- 121 人生をよりよくしたいのなら・・・
- 122 自分の中のネガティブな感情
- 123 畏れを感じてもらえる存在を目指す
- 124 勉強不足でわからない
- 125 「おまかせします」の一言
- 126 相手の損を埋めようとする姿勢
- 127 人の魅力
- 128 語尾づかい
- 129 人を信じる心
- 130 カベ
- 131 人を不足気味にするのは？
- 132 頭がよくても・・・
- 133 あるべき姿
- 134 松尾芭蕉『俳諧無門関』
- 135 武田信玄『甲陽軍艦』
- 136 丁稚の子どもを優秀な商人に育てるためのマニュアル
- 137 受けた恩とかけた情け
- 138 気づかいに必要なこと
- 139 形式よりも精神を養うこと
- 140 気づかいの本質
- 140 気づかいの本質
- 141 気づかいは・・・
- 142 未来を拓く
- 143 元気
- 144 料理は温かいうちにお客さんに届けるもの

- 145 アイデア
- 146 人が「つながり」を感じるのは・・・
- 147 痛みは避けられないけれど・・・
- 148 仕事は遊び
- 149 「Why」をどう捉えるか？
- 150 今日のことは・・・
- 151 自分は誰かに助けられて生きている
- 152 失敗と嘘
- 153 対立するのが一番怖い相手は？
- 154 バカを破産させたかったら・・・
- 155 信仰
- 156 雇われの身
- 157 だいたいの方は・・・
- 158 素直な心
- 159 私心から離れる
- 160 自分の意見なり主張に囚われない
- 161 人の心のかなしみがわかる青年
- 162 「人」を抜きにして・・・
- 163 美
- 164 個人の幸福
- 165 理想の高さ
- 166 謙虚
- 167 日本は滅びる？
- 168 信頼を求めるな
- 169 相手を変えようとするな
- 170 暮らしは低く、思いは高く。
- 171 リーダーとは・・・
- 172 日々の生活に関連した科目は、もともとお金をかけていない。
- 173 固定費
- 174 贅沢
- 175 お金は将来の目標を実現するために使う
- 176 ローン
- 177 家計が赤字なるは・・・
- 178 男性サラリーマンの生涯平均給与
- 179 最初にすべきこと
- 180 家計管理の大原則
- 181 お金の使い方の基本

- 182 世の中を幸せに生きていくコツ
- 183 自分なりの「幸福論」
- 184 事あれ主義
- 185 成熟社会の姿
- 186 効果と効率
- 187 行動→理解
- 188 どこに逃げても・・・
- 189 迷ったら・・・
- 190 何かを行うことと、何かを思うこと。
- 191 記憶
- 192 覚えるコツ
- 193 生きる
- 194 ありのままの相手を愛することはできるが・・・
- 195 罪、苦悩、希望、真実の道についての考察
- 196 学びや経験を通して掴んだことを言語化し、脳内に定着させておく。
- 197 「没入×組み合わせ」で独壇場をつくりだす
- 198 多くの人に会い、ロールモデルを見つける。
- 199 読書は一気に「著者ごと」「ジャンルごと」
- 200 未来とは・・・
- 201 歴史とは・・・
- 202 思慮深い人物
- 203 個人のキャリア
- 204 ネイティブ・アメリカンの教え
- 205 自分の考えたとおりに生きなければならない
- 206 奥深さ
- 207 「時は逃げゆく」（ローマ時代の格言）
- 208 今日を生きよ
- 209 セネカ『倫理書簡集』
- 210 人を育てるうえで大切にしていること
- 211 「自分自身も他人の資本である」という意識を持つ
- 212 不正を隠すな！
- 213 有言実行は期限付きで！
- 214 誠
- 215 リーダーや経営者にとって大切なこと・・・
- 216 リーダーには・・・
- 217 【 関連書籍 】

まえがき

言葉は、すべてひとつにつながって、わたしたちにもどってきます。

だから、気持ちの状態を変えたいとき、言葉が持つ力はとても大きくて。

心が求めている言葉は、きっと自分の中に、そして外にも見つかるはず。

これは、日々の暮らしの中でいつも思うことの一つです。

心をあたたかにしてくれる言葉は、暮らしの中にたくさん散らばっていて。

それらを並べてみると、また別のしあわせな言葉がたくさん浮かんできます。

それはまるで、連想ゲームのように・・・。

ありふれていて、とりたてて意識するほどのことではないのかもしれませんが。

どれもこれも、日々の暮らしの中に散らばっている小さな幸せのカケラたち。

一日を振り返ってみると、ささやかだけど「いいこと」や「幸せなことば」をたくさん思い浮かべることができます。

あなたもぜひ、しあわせな言葉を貯金してみてください。

しあわせ言葉の貯金は、ちょっと元気がないとき、何か落ち込むことがあったとき。

きっと、あなたの心を励ましてくれます。

心をきれいにする

「心をきれいにする」のに、特に効果が高い「奉仕活動」が、掃除です。

身の回りのすさみを取り除くと、心の中のすさみも除かれ、心が澄んできます。

このことを理論的に証明したのが、前ニューヨーク市長のルドルフ・ジュリアーニ氏でした。

凶悪犯罪がはびこる街を立て直すために彼が取り組んだのは、凶悪犯の摘発ではなかった。

それまで見過ごされていた、落書きや軽犯罪を徹底的に潰すことでした。

その結果、7年の間で、殺人の発生件数を実に67%も減らしたといえます。

水は自ら低いところへと流れていく

水は自ら低いところへと流れていくので、他と競争することはありません。

自ら低いところへ身を置こうとするこの謙虚さと、どんな形にも変化する柔軟さが水の特長であり、それこそが私たち人間にとっても最上の生き方だと、老子は教えてくれるのです。

忙しいという字

忙しいという字は、「心を亡くす」と書きますね。

つまりこれは、自分の心の声が聞こえていない状態です。

ぜひ生活の中で、自分と対話する時間をつくってみてください。

幸せになりたい？

「幸せになりたい」と幸せを求めているとき、私たちは「今は幸せではない」と認めていることになり、今の状態に感謝できません。

この心境で生きる限り、本当の幸せには出会えないのです。

大切なのは、恐怖心を消すことではなく、恐怖心があっても行動を起こすことなのです。

望む人生を築き上げていくためには？

「なぜ私が正しいか」「なぜあなたが間違っているか」という話を始めると、戦いが起きる。

望む人生を築き上げていくためには、主体的であることが必須条件。

夢

夢は実現できるかどうかを考えるものではなく、実現したいかどうかを決めるものです。

そして、「やる」と決めたら、あとはどうしたらできるかを考え続けなければならないのです。

その考える時間が長いほど、真剣であるほど、今までにない新しい実現方法が見つかります。

限界

限界を作ることができるのは、自分だけです。

夢をあきらめることができるのも、自分だけです。

自分があきらめない限り、夢が私たちをあきらめることはありません。

人は、一人では弱い生き物。

人は、一人では弱い生き物です。

でも、本当に信頼できる仲間がまわりにいれば、どんな苦しみでも耐え抜いていくことができます。

わかってくれない人はいない

わかってくれない人はいない。

わかってくれる前に、努力をやめてしまう人がいるだけなんだ。

創造すること、道を切り開くこと。

予測することも大切ですが、もっと大切なことは創造すること、道を切り開くことです。

それは、「今できることからやる」ことにほかなりません。

応援と信頼

もし、まわりの人が自分を応援してくれないとすれば、自分がまわりの人を信頼し、応援してこなかったからです。

人間を商品価値で判断する愚考

現代日本社会においては、人間はすべて商品価値で測られるようになりました。

だから親はわが子の教育を、その子の商品価値を高めることだと思ってしまう。

感謝の心

感謝の心があれば、すべてが宝物になります。

欲深い不満の心だと、何を貰っても化け物になるのです。

「舌切り雀」の話は、そのような見方を教えているのです。

欲望という化け物

子どもの取った70点という点数は宝物です。

それを、お母さんの〈平均点以上を取ってほしい〉と思う欲望が化け物に変えてしまうのです。

世の中の物差しはご都合主義

世の中の物差しはご都合主義なんです。世の中には強者と弱者があって、強者に都合よく出来ているのが世の中の物差しです。

世間の物差しのほかに、もう一つの物差しを持つことです。

迷いを他人に相談してはいけません。

他人に相談することは、世間の物差しに依ろうとしているのです。

家庭

どだい日本人は、家族のあいだでの会話がありません。

家庭というのは、「砦」なんです。

イギリスには、――家は城なり――という法諺があるそうです。

思うがままにできないこと

思うがままにできないことは、思うがままにしようとししないこと。

欲望を充足させるとますます肥大化する。

人生を味わいつつ生きる

人生を味わいつつ生きる。

それこそがすばらしい生き方。

間違いを犯した時

間違いを犯したら、速やかに、十分にそれを認めること。

人生からの収穫

人生からは自分で蒔いたものしか収穫することはできない。

相手に対する自分の態度が、自分に対する相手の態度を決定する。

あなた自身を自ら侮れば、他人もあなたを侮るようになる。

泳ぎがうまかろうがまずかろうが・・・

「水に落ちたら、泳ぎがうまかろうがまずかろうが関係ない。とにかく這い上がらねば溺れる。」
（『月と六ペンス』の登場人物ストリックランドが言ったセリフ）

不確実な未来

不確実な未来を少しでも自分の手でコントロールしようと思ったら、過ぎ去った時間に拘泥してはダメ。

法然上人の箴言

「俺が俺がの『が』を無くし、お陰お陰の『げ』で暮らせ。」（バンダイ創業者・山科直治が好んだ法然上人の箴言）

企業の理想

企業の理想は、大量に採用して早めにたくさん辞めさせることである。

辞めさせる場合は、GEの経験では毎年15%だが、マッキンゼーの経験では毎年20%だ。

マッキンゼーの場合は入社時に「あなたが5年後に生き残っている確率は5分の1ですよ」と説明する。

精鋭だけを残すからGEもマッキンゼーも強くなったのである。

自分の生き方や考え方、態度が「正しい」かどうか自問する代わりに、それでうまくいっているかどうか自問してほしい。

相手が自分の子供であろうと夫（妻）であろうと、上司であろうと他の人であろうと、彼らを動かしているものを知らなければならない。

ものがわかっていない最悪のかたちは、わかっていないのにわかっていると思うことだ。

あなたが行う、それも毎日行うとりわけ重要な選択は、他の人にどんな自分を見せるか決めることだ。

「うまくいっている」というのは、望ましくない行為に見えても、その行為から何らかの見返りを得ているということだ。

自分が認めていないことは変えられない。

人々は、あなたの意思には関心がない。人々が興味を持っているのは、あなたの行動だ。

現実なんてない。

あるのは認識だけだ。

自分の認識を新鮮で新しいものにし、過去ではなく事実に基づいたものにしよう。

あいまいな「答えのない」問いかけは、恐ろしいまでに人を弱らせる。

相手が同じ行動を繰り返すか否かは、あなたがその行動をどう解釈し、どういった反応をするかで決まる。

憎しみを抱き続ければ、信じられないほど高い代償を払うことになる。

あなたが手に入れるのは、最高でも自分が求めるものなのである。

できる人

「できる人」ほどタイガー・ジェット・シンのように、場外乱闘から仕事を始めています。

人をやる気にさせるには？

人をやる気にさせるには、「感動」が必要なんだ！

目の前の幸せ

あとからわいてきた欲求がかなえられていないからといって、なんて自分は不幸なんだろうと嘆いたり、なんてこの子はダメなんだろうと文句を言ったり、それでは目の前の幸せにも気づかなくなりますよね。

最も力を発揮時 . . .

人間というのは、誰かのために力を出す時に最も力を発揮できるのです。

仕事

君が心を込めて、届け！と思って贈ったそのプレゼントを仕分けしてくれている人がいることに、君は気づかないかい？

その人が仕分けの仕事を丁寧に間違いなくしてくれるから、君の心は彼女に届くよな。

君が日々やっている仕事の対象は単なる荷物じゃない。

人の心が詰まったあったかい荷物だ。

遊び上手

遊び上手になるためには、自腹で遊ぶこと。

見返りを期待しない

人に何かをして差し上げる時には、見返りを期待しない。

本当の幸せと「感動」

「ああ、やっと自分もここまで上がってこられたんだ！」と、しみじみ思えることの中に本当の幸せと「感動」がある。

根源的な考え方

根源的な考え方をすれば、くよくよできるのも、めげるのも、今この瞬間に「生」を受けているからできること。

忍耐力を養うための試練

どんな人間にも、無条件に自分を支持し、認めてくれる存在が必要ないま、つまらないと思っている授業は、オレの中の忍耐力を養うための試練なんだ！

無気力の原因

若者たちの無気力の原因は、父の威厳の喪失だ。

プロ

プロはだめな仕事をしたら、厳しい評価を受けるものなのです。

そう考えると、職業に偉いも偉くないもないし、上も下もないわけです。

仕事の仕方

すべての仕事は、「効率」ではなく「目的を達成できるか否か」で評価されるべきなのです。

だから、時には無駄を受け入れることも必要なのです。

「あなたを今いる場所へと導いた思考レベルでは、あなたが夢見る場所へたどりつくことはできない。」（アインシュタイン）

仕事ができる人に限って、ベストセラーを必ず読んでいたり、流行語をよく知っていたり、人気のある店を必ずのぞいてみたりと、実は幅広い”仕事と関係なさそうな知識”をいっぱい持っていたりします。

難しいのは、「何の仕事が重要か」という根本的なことにあります。

「目的にとって」でなく、「自分にとってのムダ」を削る。

”気づき”を得るには「ムダ」を通すしかない。

何でもやってみること、が一番大事。

リターンを考えると、”将来への種まき”はできない。

「新しい出会い」ばかりを求める人より、「いつもの出会い」を大事にできる人のほうが、結果的にはたくさんの「出会い」を呼び込むことができる。

花

強調されているのは、花というものが人の心の中にあるということである。

人が面白い、珍しいと感じることが花なのだ。

そして、この人の心というものは、移ろいやすく、あきっぽく、時に横暴・理不尽なものなのである。

そのような人の心をつかみ続けていくには、常に新しさを求めていかなければならないとしている。

世界に変化を求めるなら . . .

私の大好きなガンジーの言葉があります。

それは、"Be the change you want to see."

世界に変化を求めるなら、まず自分がその変化になりなさい。

幸福感

わざわざ人と比べて自分を不幸にすることは無いのです。

目指すべきはあなた自身のベスト。

私たちの幸福感を満たしてくれるのは、一瞬一瞬のときでしかありません。

身だしなみでいちばん大切なのは清潔感。

大人になると、秘密が結構、深刻だったりするもの。

それは言っちゃまずいでしょう、ということヒソヒソしゃべるのは、やはり品性に欠ける行為です。

自分の弱さを知る

誰かに頼る関係には、恨みがとりつく。

それは避けられない事実だ。「この人がいなければ生きていけない」と思い込めば、その関係はパートナーというより、お互いを閉じ込める牢屋のようなものになるだろう。

自分の弱さを、隠さず素直に見せられたら、世界はもっと安全な場所になる。

大切なのは欲望をどうコントロールするのか。

欲望に対してどんな行動を取るのか。

そして、欲望が満たされない時に感じるいらいらに、どう対処するのかだ。

問題は、その心の空洞をどう埋めるかということではない。

問題は、その渴望を抱えながら、どう生きるかなんだよ。

自分を理解してもらいたいという願望は、愛されたいという願望より強いものなのです。

人間力

人間力とは、人を感動させる力のことです。

感動を与えられる人が、人間力のある人です。

そして、人間力の源は、「本気になること」にあります。

本気にならなければ、人間力も生み出せないし、人を感動させることもできません。

人間は一番辛いもんから逃げる。

後回しにする。

この二つをやったら、いかん。

一番嫌いなものに対面して、逃げるな。

後回しにするな。

この二つができたら、人間まともになる。

質問

「人生は、どんな質問をしたか、どんな質問をしなかったか、どんな質問を考えつきもしなかったかで決まる。」（サム・キーン）

ビジネス書の使い方

ビジネス書は使い方を間違えると官能小説になる、というお話をしました。（妄想・自己満足に陥る、という意味）。

具体的には、多くのビジネス書が陥っている「ハロー効果」や「相関関係と因果関係の混同」「成功例だけのサンプル」などを指摘し、逆に、触れられていない競争環境の話や、戦略リスクの話を説いています。

自分自身をある程度客観的に見ることができる人

人々は、起こったに違いないと信じている事実に関心を巡らせているうちに、やがては実際に起こったことを思い出しているように思いこんでしまうものだ。

自分自身をある程度客観的に見ることができる人（「メタ認知」能力の高い人）は、どちらかという自分自身の「思い込み」と現実に存在した事実の記憶を混同してしまうことが少ない。

人間の時間は有限

人は必ず死ぬ。

人間の時間は有限であり、しかも、その生命の終焉は自分が考えるよりもはるかに間近にあるものだ。

コンコルドの誤謬もしくはサンクコストの過大視

先行投資額が巨大だと、損失回避の傾向から、人は未来の予測をしばしば誤る。

アンカリング効果

最初に印象に残った数字や物が、その後の判断に影響を及ぼすこと。

比べるのなら、「昨日の自分」。

誰と比較しても、どう己を装ってみても、自分は自分以上ではなく、自分以下でもないのです。

だから比べるのなら、「昨日の自分」と比べるべきです。

凡事ができない人間に大事は望めない。

大切なのは、上手に生きることではなく本気で生きることです。

人は孤独の中で成長するもの

人は孤独の中で成長するものです。

ひとは想像力の母体でもある。

だから一日に三十分でもいいから、群れから離れて、一つの個として己を見つめ、己と向かい合うべきです。

自分自身と対話する時間をもたないと、人間は思いや考えを深めることができないのです。

疑うことなく信じれば・・・

信じず、疑えば傷は小さくてすむかもしれない。

しかし同時に、得るものも小さい。

誰も信じなければ、誰からも信じてもらえない。

疑うことなく信じれば、少しの損失と引き換えに大きな信用を得られる。

深い喜び、深い幸せ。

人は何かをしてもらったときより、自分が人のために役立っていると実感できるときのほうが深い喜び、深い幸せを感じるもの。

勉強よりも . . .

まずあいさつのできる人間になる。

経験とは？

経験とは、求めていたものを手に入れられなかったときに、手に入るものだ。

最高の近道

近道を探す人はたくさんいる。

僕は、最高の近道は長くかかることを知っている。

一生懸命にやること、それだけだ。

保証

人間は誰でも「こうすればこうなる」という保証があることに対しては抵抗なく取り組みます。

しかし、何ひとつ保証や約束がなされていないことに対して、進んで取り組む人はなかなかいないものです。

力耕せば、吾れを欺かず。

「力耕せば、吾れを欺かず。」（陶淵明）

努力は必ずしもそのままのかたちで成果として現れることはないかもしれません。

しかし、努力したことはかたちを変えて必ず自分に返ってきます。

平凡

世の中のことは、平凡の積み重ねが非凡を招くことになっています。

平凡なことを徹底して続ければ、平凡のなかから生まれてくる非凡が、いつかは人を感動させる。

汗

「若いとき流さなかった汗は、老いてから涙となって返ってくる。」

歴史

「十年偉大なり、二十年畏るべし、三十年にして歴史なる。」

見返り

見返りの得られないことに対して、どれだけ真剣に取り組めるか。

この基準が、人物を左右します。

不快

楽しくて愉快なときの過ごし方に、工夫も努力もいない。

人の真価が問われるのは不快なときである。

真の幸せ

「真の幸せは、自由のなかにあるのではない。義務の甘受のなか存在する。」（アンドレ・ジ
ッド）

便り

「二度とない人生だから、一人でも多く便りをしよう。」（坂村真民）

一切の不幸せ

「一切の不幸せは、貧しさや不足から生ずるのではない。あり余るところから生ずるのだ。」（トルストイ）

真の自由

「真の自由とは、他人の幸福を奪うことなく、自分自身の幸福を追求することである」（J・S・ミル）

親切で優しくあれ

「親切で優しくあれ。あなたを訪ねてきた人を、少しでも幸せにしないで帰してはいけない。」
」（マザー・テレサ）

特別

「特別じゃない多くの人に支えられている。特別じゃない私にもできること。」

ほめる

「ほめることは大切です。だが、もっと大切なことは、ほめることが出てくるように、ほめる種を播いていくことです。」（大村はま）

心の糧

「飯の糧にならないことが、心の糧になる。」（藤沢周平）

エリート

「エリートとは、断れば断ることのできる責務を、あえて受諾する者である。自分自身の上に、困難を積み重ねる者である。」（オルテガ）

喜びを得るには？

だまされるのではないか、という「疑い」の目でいつも他人を見る人は、決して永続する喜びを得ることはできません。

どんな言葉も選択できるけど・・・

あなたはどんな言葉も選択できます。しかし、あなた自身の器以上の言葉を発することはできないのです。

自分の器

私たちは、自分の器と同等のものしか見えません。

一度に一つのことだけ

一度に一つのことだけを考えましょう。

心の力を散乱させないようにするのです。

知識の聖堂の扉

忍耐、実践、そして絶え間ない粘り強さによってのみ、知識の聖堂の扉を開くことができる。

環境

環境は人をつくりません。

環境はその人そのまを映しだすのです。

自分と同等のものを引き寄せる

人は、自分の欲するものを引き寄せません。

自分と同等のものを引き寄せるのです。

人生に明確な目的のない人

人生に明確な目的のない人は、ささいな心配、恐怖、問題、自己嫌悪の犠牲者になりやすい。

真の自制心

真の自制心は力です。

正しい思考は勝利です。

静けさは力強さです。

一点に集中するノウハウ

食事メニューをはじめ、試合前の準備、練習メニュー、試合中の身体の動かし方にいたるまで、同じであることに徹底的にこだわり、決められた所作をこなしていくことで、次第にスイッチが入っていく。

そしてバッテリーボックスに立ったとき、イチローの集中力は極限まで研ぎ澄まされるという。

とにかく、自分の目指す「一点」にエネルギーを集中すること。

それ以外は勇気を持って「捨てる」こと。

そして、この「決断」ができるかどうか――。

ひたむきに「一点集中」する姿は、周りを感動させ、限りない影響を与えていく。

一点に集中するノウハウは、結局は捨てるノウハウでもある。

集中すべき対象を、できるだけ単純明快、簡単なものにすること。

思想的貴族

「常に自分に課題を課していく人が、思想的貴族だ。すぐれた人間とは、自分自身に多くを課することである。」（スペインの哲学者オルテガの言葉）

品がない行為？

ビジネスマンが仕事に必要な本を立ち読みですませようというのは、実に品がない行為。

アイデアや工夫

すべてのアイデアや工夫は、「制限」から生まれる。

「今日」

人生においては「今日」しかありません。

今日頑張れない人は一生、頑張れないのです。

弱い人間の本音

きれいなトイレが好きなのに、掃除は嫌い。

これが我々弱い人間の本音です。

仕事の能率

常に前半に力を傾けていくことで、仕事の能率は格段に上がる。

運を味方に付ける 一つの要素

下心を表に出さない上品さをもつ・・・。

それが、運を味方に付ける一つの要素であろう。

内と外

エンジンだけが素晴らしくてもダメ。

また、デザインだけがよくてもダメ。

内と外の両輪がそろった時、はじめて人の心へ伝わるのである。

男女比

男女比は6 : 4がもっとも盛り上がります。

人はその人の過去の全部である

「人は、一度巡り合った人と二度と別れることはできない。」

人は記憶とは別れることが出来ない。

それは、人との別れというものが存在しないことと同じ・・・。

人は過去の記憶にとらわれて、その中で生きようとしてしまいがちな気がする。

そうではないと思っても。

人はどうしても「期待」する生き物だという。

しかし、その裏には常に不安が影を潜める。

記憶というものは、その人を作る要素として非常に重要なものだ。

自由に操ることができないのが厄介だが。

刹那的な日常。

年齢を重ねるにつれ、新しいことよりも古い記憶が占める割合が増えていくような気がする。

人は過去の記憶の上に生きているのかも知れない。

情緒の中心

いったい、情緒の中心をまとめているものはなんですか。

表現することばがむずかしいのですが、しいていうならば愛だと思います。

情緒の中心の調和がそこなわれると人の心は腐敗する。

社会も文化もあつという間にとめどもなく悪くなってしまふ。

情緒の濁り

情緒の濁りはいけない。

情緒は喜怒哀楽によって濁ります。

とくに、人を恨むというようなことをするとひどく濁ります。

時間とは？

時の中に人は住んでいます。

時間とは時の簡単な模型にすぎないのです。

情と愛

情と愛（欧米でいう）とは違う。

愛も情にちがいないがごく浅いのであって、情は心が通い合うのであるが、愛は自他对立する。

愛を連続的に変化させるといつの間にか憎しみに変わる。

それで仏教では愛憎というのである。

人として一番大切なこと

人として一番大切なことは、他人の情、とりわけ、その悲しみがわかることです。

善行

このくにの善行は「少しも打算、分別の入らない行為」のことであって、無償かどうかをも分別しないのである。

心の眼

心の眼が開いていないと、もののあるなしはわかるが、もののよさはわからない。

たとえば秋の日射しの深々とした趣はけっしてわからないのである。

自分というもの

自分というものが本来あるのではなく、自分というものがあると思っていることがあるだけ。

知性は理性

知性は理性と同一ではなく、理想を含んだものだと思うが、はっきりと理想に気づいたのもギリシャ文化が初めてだった。

教育について大切なこと

除草、施肥、耕鋤の三点に相当するものが教育について大切。

教育

教育というのは、ものの良さが本当にわかるようにするのが第一義。

人の心

人の心を知らなければ、物事をやる場合、緻密さがなく粗雑になる。

(中略)

緻密さが欠けるのはいっさいのものが欠けることにほかならない。

趣きを表す字が欠けていては、人の心は育ちません。

恋愛の大義名分

恋愛の大義名分は自己犠牲であって、自己主張ではない。

自分を変えるための一番の方法

自分を変えるための一番の方法は、「自分がなりたいと思える人」の近くにいること。

唯一の本当の間違ひは？

唯一の本当の間違ひは“間違ひを犯すこと”を恐れることである！

本当の幸せを犠牲にしない

多くの人間は、自分にとっての本当の幸せがなんなのかわからない。

その結果、本当の幸せを犠牲にして生きるはめになる。

ある者はお金を得るために、ある者は人から認められるために、ある者は自分の正しさを証明するために、本当の幸せを犠牲にするのじゃ。

その場の感情や衝動に動かされない

実に多くの人間が、その場の感情や衝動に動かされて、自分が望む現実とは逆の現実を創り出してしまふ。

そして、人生でこれを繰り返しているのじゃ。

混乱している根本的な理由

君がそこまで混乱している根本的な理由の一つ。

自分の中心軸が定まっておらんことじゃ

孤独

海で遭難し漂流する者は、大量の水に囲まれながら、たった一杯の真水がないために渴きで苦しむ。

同様に、現代人の多くは、さまざまな人間に囲まれて生きていながら、心からのつながりを感じる相手がないために孤独なのじゃ。

どのようにして人とつながろうとするか？

重要なのは「どのようにして人とつながろうとするか」じゃ。

これを間違っているために、多くの者はつながりを求めながら、真のつながりを得ることができない。

人に認められることを目指すということは？

人に認められることを目指すということは、周りの人間の価値観に振り回されることになる。

比較の世界

目に見える結果によって人から認められようとする限り、比較の世界にはまり込んでしまう。

比較の世界では、自分の相対的な価値は上がったりに下がったりするのじゃ。

人間の行動の動機

いいかね、人間の行動の動機は、突き詰めていくと愛か怖れのどちらかしかないのじゃ。

怒りの背後には？

君の中の怖れが、彼を敵として捉え、怒りという感情を生み出すのじゃ。

怒りの背後には怖れがあるのじゃ。

怖れに支配されないこと

怖れは誰にでもある。

大切なのは、怖れに支配されないことじゃ。

怖れがあっても、愛による行動を選択できるようになればよいのじゃ。

子どもの自尊心

子どもの自尊心は、いい成績を取って褒められたときに満たされるのではない。

悪い成績を取っても抱きしめられたときに満たされる。

人生をよりよくしたいのなら・・・

人生をよりよくしたいのなら、自分が信じていることも疑ってみることじゃ。

自分の中のネガティブな感情

人は、自分の中のネガティブな感情に向き合っていないと、他人のネガティブな感情を受け止めることができない。

畏れを感じてもらえる存在を目指す

畏れを感じてもらえる存在を目指す、そして畏れを感じる人のそばにすること。

勉強不足でわからない

「勉強不足でわからない」と言うのは圧倒的にファーストクラスのお客様。

「おまかせします」の一言

「おまかせします」と一言発し、ゆだねることで他者の能力を引き出す。

相手の損を埋めようとする姿勢

相手の損を埋めようとする姿勢が支持を集める。

不思議と、「ごめんね、時間を奪って」とおっしゃるのは必ずVIPのお客様なのです。

人の魅力

人の魅力は、リアクションの質で決まる。

語尾づかい

教をいただく際にさすがと感じたのが、言葉づかいならぬ、「語尾づかい」でした。

説明の随所や、言葉尻に「僕の説明でわかるかな?」「ちょっと難しい内容だけど」「これはすでにご存じだと思うけどね」といったように、相手の気持ちをうまく会話に取り入れるサービス精神を織り込んでくださり、気持ちよく会話が進んでいたのです。

人を信じる心

人を信じる心をなくしてはいけない。

人間性とは広い海のようなもの。

数滴の汚れで、海全体が汚れることはない。

(アムリット・カウルへの手紙 1947年8月29日)

カベ

カベは行動する者にだけ見えるのだ

人を不足気味にするのは？

人を不足気味にするのは、人材開発のための絶好の畑である。

有能な人が、仕事の負担が大きく重いことに苦情を申し立てることはまずない。

頭がよくても . . .

頭がよくても問題や摩擦を避けていては組織は動かぬ

あるべき姿

問題は「あるべき姿」を求めて、日々真剣に自己の任務を掘り下げ追求しつづける意欲ある人の目にのみ、その真姿を現わすのである。

松尾芭蕉『俳諧無門関』

きのふの我に飽べし（松尾芭蕉『俳諧無門関』）

武田信玄『甲陽軍艦』

甘柿も渋柿もともに役立てよ（武田信玄『甲陽軍艦』）

丁稚の子どもを優秀な商人に育てるためのマニュアル

江戸時代の「子育てしぐさ」という丁稚の子どもを優秀な商人に育てるためのマニュアルを表した言葉。

三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で未決まる。

三つ言葉とは3歳までに心の豊かさを教えなさい。

生まれた時は心と体がまだ繋がっていないので、一日一日、心の豊かさを磨いてあげて、心と体を繋いであげる。

そうして、豊かな心に従った善い行い、感情豊かな表情のできる子が育つ。

六つ躰とは、6歳までに躰をしなさいという事。

「挨拶をしなさい」「席を譲りなさい」「お礼をいいなさい」と言った事を教え込み、実践させるのです。

九つ言葉とは、9歳までに世辞が言えるようにしなさい。

これはお世辞の事ではなく、「こんにちは。今日は暑いですね」のあとに「お体は大丈夫ですか？」など、相手を慮る言葉を付け加えるという事です。

挨拶はできるのが当たり前です。

相手への気づかいを表現できることが大切。

十二文とはきちんとした文章の手紙を書けるようにしなさい。

十五理で未決まるとは、15歳までに世の中の道理を理解させなさいということ。

受けた恩とかけた情け

『かけた情けは水に流せ 受けた恩は石に刻め』（前山寺の石碑より）

『施して報を願わず、受けて恩を忘れず』中根東里

『恩を受けた人は、その恩を心にとめておかなければならない。しかし、恩を与えた人は、それを覚えているべきではない』キケロ

『恩恵を施す者はそれを隠せ、恩恵を受くる者はそれを公にせよ』セネカ

『世の中で一番尊いことは、人のために奉仕して恩に着せないことです』福沢諭吉

『幸福になりたければ、やれ恩を返せだの恩知らずだのと言わないで、人に尽くす喜びだけを生き甲斐にしようではないか』D・カーネギー

『情けは人の為ならず』

気づかいに必要なこと

気づかいに必要なことは意識です。

意識を持つと、身につけたスキルは他のあらゆる物事と結びついてきます。

形式よりも精神を養うこと

衣を染めんよりも心を染めよ

気づかいの本質

自分が大切だと思っている人に対して、「この人は何が好きなんだろう？」「何をしたら喜んでくれるんだろう？」と考え、実際にしてあげること。

これが気づかいの本質です。

気づかいとは・・・

気づかいとは、他者を慮ることです。

相手が「欲しい」と言う前にその気持ちを汲みとり、さりげない行動で示す。

相手のことを思い、自分がしたいからそうする。これが、日本人にしかできない気づかいだと思うのです。

未来を拓く

目の前の非効率を避けていては、永久に「未来」は拓かれない。

元気

元気は元気なときよりも、元気じゃないとき、真に必要なものなのだ。

そしてその元気を生むのは、「数字や結果にとらわれてないところ」だとぼくは思う。

いってみれば、「遊び」の部分だ。

料理は温かいうちにお客さんに届けるもの

「料理は温かいうちにお客さんに届けるもの」。

小学生の頃のぼくが聞いても、「当たり前やん」と答えるに決まっている。

だけど絶対にそうしたほうがいいに決まっていることが、実行されない。

アイデア

アイデアを生むには想像力が必要だ。

アイデアを表現するには科学が必要だ。

その両方を満たすには、よく調べ、よく読み、よく考えなければいけない。

人が「つながり」を感じるのは・・・

人が「つながり」を感じるのは、「相手が自分のことを大事にしてくれていると感じた瞬間」です。

痛みは避けられないけれど・・・

痛みは避けられないけれど、『痛いと言って苦しむかどうか』は自分で選べる。

仕事は遊び

仕事は遊びです。

かなり本気の。

そして同時に真剣勝負です。

仕事の仲間とは互いのお手並み拝見合戦。

少しでも手を抜くと、あとには失望しか残らない。

そういう意味では、仕事はスポーツというより、かなり武術に近いのかもしれない。

「勝った、負けた」が目的化してしまいがちなスポーツとちがって、深いところで相手に同化できるか。

ともに能力を高めあえるか。

それが本義じゃないのかなあ。

「Why」をどう捉えるか？

「Why」をどう捉えるかによって「What」と「How」の意味合いがちがってくる

今日のことは・・・

今日のことを明日に回したら、明日やるべきことが明後日に回ってしまう。

自分は誰かに助けられて生きている

自分は誰かに助けられて生きている。

うまくいっているときこそ、それを肝に銘じたい。

失敗と嘘

失敗は許せ、嘘は許すな。

対立するのが一番怖い相手は？

対立するのが一番怖い相手は誰かといえば、自分自身だ。

バカを破産させたかったら . . .

バカを破産させたかったら情報をくれてやればいい。

信仰

信仰は「信じること」だと思っている人たちに信仰はわからないし、信じることもわからない。

雇われの身

氷と水の間なんていうものはない。

でも、生きてると死んでいるのの中間の状態はちゃんとある。

雇われの身だ。

だいたいの人は・・・

だいたいの人は、見えない、あるいは聞こえない状態を怖がる。

自分で考え、自分で想像すると、同じことばかり繰り返してしまうからだ。

素直な心

素直な心とは、私心なくくもりのない心というか、一つのことにとらわれずに、物事をありのままに見ようとする心。

素直な心になれば謙虚さが生まれ、その謙虚な態度のなかから衆知というものもおのずから集まってくる。

素直な心がない場合には、ムダな時間や費用が多くかかり、またいらざることにより心を労し、頭を使うなどして、生産性が非常に低下する。

私心から離れる

大切なことは、なすべきことは私心をはなれて断固として行なう、ということです。

ときには自分の命をかけてでもやりとげるということです。

自分の意見なり主張に囚われない

自分の意見なり主張にとらわれてしまえば、それをムリをしても通そうとして他との間に争いを生じることもあるでしょう。

これも闘争心とか憎しみで愛の心をおおいかくしているわけです。

人の心のかなしみがわかる青年

いま、たくましさはわかっても、人の心のかなしみがわかる青年がどれだけあるだろうか。

人の心を知らなければ、物事をやる場合、緻密さがなく粗雑になる。

粗雑というのは対象をちっとも見ないで観念的にものをいっているだけということ、つまり対象への細かい心くばりがないということだから、緻密さが欠けるのはいっさいのものが欠けることにほかならない。

「人」を抜きにして・・・

学問にしる教育にしる「人」を抜きにして考えているような気がする

美

美が実在するというのはうそで、本当は美などはないのです。

情緒があって美が外に出るのであって、外に美があって情緒で受けるのではないということです。

個人の幸福

いまの教育では個人の幸福が目標になっている。

人生の目的がこれだから、さあそれをやれといえ、道義というかんじんなものを教えないで手を抜いているのだから、まことに簡単にできる。

(中略)

しかし、個人の幸福は、つまるところは動物性の満足にほかならない。

理想の高さ

理想の高さが気品の高さになるのである

謙虚

謙虚でなければ自分より高い水準のものは決してわからない

日本は滅びる？

日本は滅びる、滅びると思っけていても案外滅びないかもしれない。

というのは、日本民族はきわめて原始的な生活にも耐えられるというか、文明に対するセンスが全くかけているというか、そういうところがあるので、自由貿易に失敗して、売らず買わずの自給自足となっても、結構やっていけそうにも思えるからである。

信頼を求めるな

信頼を求めるな。

それは、自らつくり出すものだ。

相手を変えようとするな

相手を変えようとするな。

「小異」を活かす人間になれ。

暮らしは低く、思いは高く。

「暮らしは低く、思いは高く」（“Plain living, High thinking”）

土光さんが手帳にかきとめていた、イギリスの詩人ワーズワースの詩の一節である。

※土光さんとは、土光敏夫氏のこと。

リーダーとは・・・

リーダーとは、「志」に従う者である。

日々の生活に関連した科目は、もともとお金をかけていない。

日々の生活に関連した科目は、もともとお金をかけていない。

そこへ一律で費用を削ろうとすれば、生活はますますすさんでしまう。

固定費

固定費には管理不能なもの、管理可能なものがある。

贅沢

「つまり君たちは何の価値ももたらさない本や服を保管するために部屋の家賃を支払っている。
これを贅沢と言わずに、何と云えばいいんだね」

お金は将来の目標を実現するために使う

「お金は将来の目標を実現するために使うのだよ。なのに、君は過去の支出を参考にして予算を作成するという。矛盾していると思わないかね」

ローン

ローンは、将来にわたり現金が出ていくマイナスの財産なんだよ。

4000万円借金して買えば、財産が増えると同時に、マイナスの財産も増える。

結果として、君の財産はゼロになる。

家計が赤字なるは . . .

家計が赤字から抜けられないのは、収入が少ないからではなく、お金の使い方が間違っているからなんだ。

男性サラリーマンの生涯平均給与

男性サラリーマンの生涯平均給与は年500万円程度だそうだ。

例えば、大ざっぱに40年間働くとして、生涯収入は2億円。

実際には税金や保険料を差し引くから1億6000万円くらいだろう。

最初にすべきこと

最初にすべきは、生涯でどれだけの収入が見込めるか、大まかでいいから計算してみることだ。

家計管理の大原則

支出は収入以下に抑えなくてはならない。

これが、家計管理の大原則だ。

この原則は、今月とか、今年とかの話ではない。

これから5年先、10年先、そして生涯を見通して、収入が支出を上回っていないんだ。

お金の使い方の基本

お金の使い方の基本は、国も、会社も、家庭もまったく同じなんだ。

収入が多い家庭が、預金が多いとは限らない。

「資本を投じる」のではなく、「気持ちをこめる」。

世の中を幸せに生きていくコツ

私は普段から、世の中を幸せに生きていくコツは、「そうですね、ちょっとやってみますか」という思考を持った人と付き合うことだと考えています。

自分なりの「幸福論」

自分なりの「幸福論」を自分自身で編集しつづけている人は、すでに幸せになっています。

事あれ主義

「上手く生きよう」とすることをやめること。

世間的に無難な「事なかれ主義」を放棄して、むしろ「事あれ主義」に転じることです。

成熟社会の姿

人が幸せになるためには、自分自身で「何が幸福なのか」を定義しなければならない。

それが成熟社会の姿なのです。

効果と効率

効果と効率、どちらのほうが重要かというと、効果のほうがダントツに重要です。効

果 (Effectiveness) とは「何をやるか (What)」ということです。

一方、効率 (Efficiency) とは「どうやるか (How)」です。

行動→理解

「行動」してみなければ「理解」することはできない。

どこに逃げても・・・

どこに逃げても「嫌なこと」はあるのが人生・・・

迷ったら・・・

迷ったら嫌なほうを選ぶ！

何かを行うことと、何かを思うこと。

何かを行うことと、何かを思うことは、両方とも人間的な行為である。

未来を夢みて心を躍らせることと同じように、人は過去をふり返って思いにふける。

そのどちらにも優劣はない。

共に私たちの人生の確かな一部ではあるまいか。

記憶

人は、よい気分のときのほうが、嫌な気分のときよりも多くのことを記憶する。

覚えるコツ

人は、自分に関係すると感じた情報ほど覚えておこうとする。

生きる

生きることは、たえずわき道にそれていくことだ。

本当はどこに向かうはずだったのか、振り返ってみることさえ許されない。

ありのままの相手を愛することはできるが . . .

誰でも、ありのままの相手を愛することはできる。

しかし、ありのままの相手といっしょに生活することはできない。

罪、苦悩、希望、真実の道についての考察

真実の道を進むためには、一本の綱の上を越えていかなければならない。

その綱は、べつに高いところに張られているわけではない。

それどころか、地面からほんの少しの高さに張られている。

それは歩いていかせるためよりも、むしろ、つまずかせるためのものであるようだ。

学びや経験を通して掴んだことを言語化し、脳内に定着させておく。

学びや経験から成功パターンを抽出し、言語化することができれば、それは理論となります。

その理論こそ、自分オリジナルの「成功方程式」に他なりません。

成功方程式をもっていれば行動が理論に裏付けられるので、迷わず判断できるようになるでしょう。

躊躇なく、成功に至る行動を再現することができます。

「没入×組み合わせ」で独壇場をつくりだす

何かに没頭、没入することは、自分を変える上でとても大切です。

もしもこれまでの人生において「あるジャンルに深く没頭してきた」、さらには「2つ、3つの分野で没入体験を重ねてきた」のであれば、それらを組み合わせたり、掛け合わせたりすることによって、独自の世界、新しい市場を確立する大きな可能性を有しているのです。

しかも没入してきたのがマイナーな世界であればあるほど、「希少性」の高い世界を生み出すことができます。

多くの人に会い、ロールモデルを見つける。

誰とも会おうとせず、ずっと同じ会社において、朝から晩までその価値観の中に浸かっていたら、世界はそれ以上広がらないでしょう。

自分はどんな強みをもっているのか、もっと自分の価値観と合致する世界はないのか、自分に合ったやり方で戦える世界はないのかがわからないまま、生きていかざるを得ません。

ぜひ、できる限りたくさんの人と出会ってください。

たくさんの人と会えば世界が広がり、自分に適合する世界が見つかります。

自分の強みを活かせ、価値観が合致する世界が見つかるのです。

読書は一気呵成に「著者ごと」「ジャンルごと」

関連性のない本を手当たり次第に百冊読むよりも、「同一著者の著作間」「著者の友人・知人関係」のつながりに注目して選んだ本を百冊読むほうが、数倍どころか十倍以上、記憶に定着します。

当然、得るものも多くなります。

だからこそ読書で何かを学び取ろうと思ったら、縦軸、横軸のつながりを重視して「著者ごと」「ジャンルごと」に一気呵成に攻め上げることが大切です。

未来とは・・・

未来とは選択であり、それは意志によって実現する。

歴史とは・・・

重要なことは一歴史とは、ランダムな出来事の連続により創られるのではなく、同じパターンの物語の繰り返しにより創られているという認識だ！

思慮深い人物

思慮深い人物なら、われわれがみな家族や友人の意見から影響を受けていることや、状況が重要であることや、万事が関係していることは内省するだけで理解できる。

そういう人物なら、社会科学の助けを借りずとも、認識が重要であることや、人々が金ばかりを気にかけるのではないことも知っている。

個人のキャリア

個人がキャリアの早いうちに成功をおさめると、一定の構造的優位を得られるので、本来の能力にかかわりなく、その後も成功する見こみがずっと大きくなる。

ネイティブ・アメリカンの教え

「あなたが生まれたとき、みなが笑って、あなたは泣いたでしょう。だから、あなたが死んだとき、みなが泣き、あなたは笑っているような、そんな人生を送りなさい。」

自分の考えたとおりに生きなければならない

「自分の考えたとおりに生きなければならない。そうでないと、自分が生きたように考えてしまう」（ポール・ブールジェ）

奥深さ

何にもまして重要なものが一つある。

「奥深さ」である。

(中略)

人生の一こまに心をとらわれたときの覚醒、情感、会得——それが奥深さの本質である。

「時は逃げゆく」（ローマ時代の格言）

詩人のウェルギリウスは、「あわれな人間たちにとって、人生の最良の1日は真っ先に逃げていく」と歌いました。

セネカもこの言葉を引用しながら、人は「今の自分」のために時間を使わないと、ただでさえ逃げ去る時間が、さらに手元からこぼれ落ちていく、と警告しています。

今日を生きよ

「明日の生活はあまりに遠い先にある。今日を生きよ」（『寸鉄詩』マルティアーリス）

セネカ『倫理書簡集』

セネカは同じ『倫理書簡集』の中で「すべては他人のもの。時だけが自分のもの」と述べています。

人を育てるうえで大切にしていること

人を育てるうえで大切にしていることが二つある。

どんな小さいことでも褒めてあげること。

たとえ失敗をしても、それを分析することはあっても、責めないこと。

「自分自身も他人の資本である」という意識を持つ

「自分自身も他人の資本である」という意識を持つことです。

平たく言えばギブ・アンド・テイク。

言葉を換えれば自分は資本を使う主体のみならず、他人の資本として使われる客体でもあるという意識を持つということです。

不正を隠すな！

「不正をするな」より「不正を隠すな」

有言実行は期限付きで！

有言実行には「いつまでに」という期限を設けることが重要な意味を持つ。

誠

「言う」を「成す」と書いて「誠」。

これは私がリーダーとして大事にしている言葉だ。

リーダーや経営者にとって大切なこと・・・

リーダーや経営者にとって大切なことは、何度も同じことを繰り返して言うことだ。

リーダーには・・・

リーダーは「着眼大局」「着手小局」が大事！

【 関連書籍 】

ニチジョウサハンジ 1 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/3285/read>

ニチジョウサハンジ 2 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/4119/read>

ニチジョウサハンジ 3 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/4120/read>

ニチジョウサハンジ 4 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/13007/read>

ニチジョウサハンジ 5 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/13307/read>

ニチジョウサハンジ 6 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/13327/read>

ニチジョウサハンジ 7 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/14330/read>

ニチジョウサハンジ 8 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/20345/read>

ニチジョウサハンジ 10 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/17226/read>

ニチジョウサハンジ 11 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/17666/read>

ニチジョウサハンジ 12 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/17700/read>

ニチジョウサハンジ 13 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/17701/read>

ニチジョウサハンジ 14 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/91968/read>

ニチジョウサハンジ 15 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/92689/read>

ニチジョウサハンジ 16 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/93027/read>

ニチジョウサハンジ 17 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/93031/read>

ニチジョウサハンジ 18 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/93090/read>

ニチジョウサハンジ 19 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/96907/read>

ニチジョウサハンジ9～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/15613>

著者 : bax

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/trafalgar/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/15613>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/15613>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ